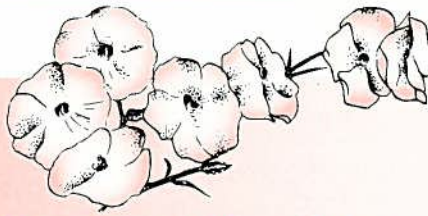


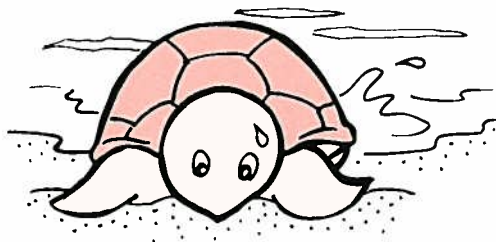
国指定天然記念物

御前崎の アカウミガメガイド



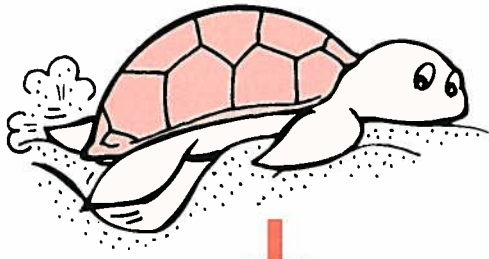
上陸（観察できません）

波打ち際で上陸場所を探して、安全を確かめてから上陸します。
産卵場所を探す間に人影を見ると、海に帰ってしまいます。



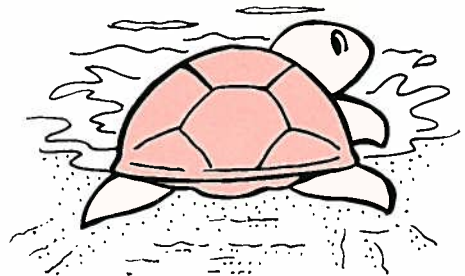
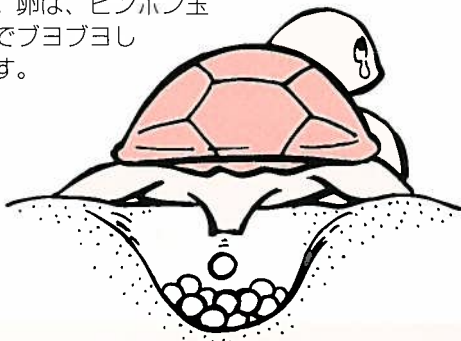
穴掘り（観察できません）

地ならしをしてから、左右の後足をシャベルのように使って直径20cm、深さ50cm位の底が少し広い穴を掘ります。



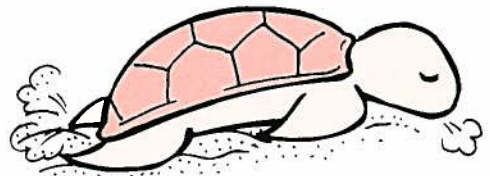
産卵（観察できます）

1個、2~3個と繰り返しながら、平均120個位の卵を産みます。卵は、ピンポン玉くらいでブヨブヨしています。



降海（観察は終わりです）

疲れた体を少し休んでは歩き、ゆっくり海に向かいます。シーズン中、2~3回産卵します。



穴埋め（観察できます）

後足でおさえながらしっかり埋め、次に「右前足、左後足」「左前足、右後足」というように砂をかけ、最後に前足で平泳ぎのようにして砂をかけます。どこに産卵したのかわからなくなります。

ウミガメ Q&A

Q

☆ウミガメについて

- Q1. アカウミガメってどんなカメですか？
- Q2. ウミガメの種類は何種類ありますか？
- Q3. オスとメスの見分け方、歯はありますか？
- Q4. ウミガメの寿命はどれくらいですか？
- Q5. アカウミガメは何を食べていますか？
- Q6. ウミガメはどれくらいの深さまで潜ることができますか？
- Q7. ウミガメのオスとメスはどやって決まるのですか？
- Q8. アカウミガメの外敵はなんですか？
- Q9. 子ガメから大人になるカメは、どれくらいの確率ですか？
- Q10. なぜ、ウミガメは産卵するときに涙を流すのでしょうか？

☆御前崎のウミガメ保護活動について

- Q11. いつ頃から保護しているのですか？
- Q12. 監視員はいつパトロールするのですか？
- Q13. パトロール以外にはどんな保護活動をしているのですか？
- Q14. なぜふ化場に卵を持ってくるのですか？
- Q15. ふ化しない卵はありますか？

☆御前崎小学校でのウミガメ飼育活動について

- Q16. 御前崎小学校では、いつ頃からウミガメの飼育をするようになったのですか？
- Q17. 5年生が育てるようになった理由は何ですか？
- Q18. エサは何ですか？
- Q19. エサは1日に何回あげますか？
- Q20. ウミガメは1ヶ月にどれくらい大きくなりますか？

☆ウミガメについて

A

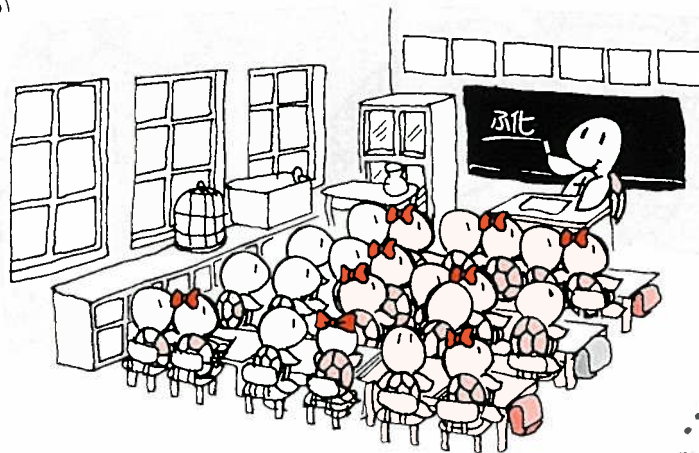
- A1. 本州、四国、九州で産卵する唯一のウミガメで、5月から8月に産卵する。背面（甲羅）の色は褐色で頭部が大きいのが特徴です。
- A2. 確認されているのが8種類、日本では5種類みられ、そのうち砂浜で産卵が見られるのはアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種類です。残り2種のオサガメ、ヒメウミガメは産卵をしません、沿岸を回遊しています。
- A3. 大人のウミガメは、尾で区別します。オスは尾が長く甲羅からはみ出しますが、メスの尾は短く甲羅からでていません。歯は、角質の一枚歯です。
- A4. 年齢は、上腕骨断面の年輪で分かると言われていますが、はっきりとは分からないため、年齢を調べるのが難しく、定かではありません。これは、成長や寿命が生息環境により異なるか

らです。

- A5. 子ガメの内は、クラゲや海藻などを捕食していると言われています。一般的に雑食性で、エビ、カニ、イカ、タコ、貝類などを食べます。
- A6. アカウミガメ、アオウミガメは200m以上潜水する場合があります。時間は、日常生活で15分から30分、2時間以上の場合もあります。オサガメについては、1000m以上も潜水できると言われています。
- A7. 卵のときの地温が29度より低いとオス、高いとメスになりやすいです。
- A8. 子ガメの頃は、鳥やサメなどです。
- A9. 5,000頭に1~2頭が大人になれると言われています。
- A10. 悲しいからではありません。体内の塩分濃度を調節する器官（塩類腺）で、こされた塩水が粘液として常に排出されています。

☆御前崎のウミガメ保護活動について

- A11.**昭和47年に教育委員会が2名のウミガメ監視員を委嘱したのが始まりです。
- A12.**朝のパトロールは、4時から6時位まで、夜間のパトロールは、21時から24時位まで、特別な場合は、深夜2時、3時という場合もあります。5月上旬から9月上旬頃まで毎朝、巡視しています。また、ふ化の巡視は、8月上旬から11月上旬まで毎夜行っています。
- A13.**産卵場となる海岸の清掃や砂浜を保つために堆砂垣を行ったりしています。
- A14.**ふ化場へは、台風被害、盗掘、外敵からの保護を目的として卵の移設をしています。
- A15.**産卵した場所の砂が湿ったり、運搬途中に卵が転がったり、ふ化場内の地温上昇など、様々な原因によりふ化しない場合があります。



☆御前崎小学校でのウミガメ飼育活動について

- A16.**昭和52年に観察クラブが誕生してウミガメの観察、飼育活動を始めました。現在は、5年生全員で飼育活動を行っています。放流や海岸清掃は全校生徒で実施しています。
- A17.**5年生になると環境教育が行われます。年々御前崎の自然環境も変化し、ウミガメにとって厳しい状況です。(例えば、海岸浸食・ゴミ問題)子ガメの飼育をすることにより、自分達の住むまちのことや身近な環境問題、命の大切さや思いやりの心を感じてほしいからです。
- A18.**飼育しているカメのエサは、イワシ、サバ、イカ、エビ(コマセ)等です。カメの大きさに合わせて細かくして与えています。
- A19.**1日1回です。

A20.育つ環境によりますが、ふ化時甲長約4cmのものが、9ヵ月後には20cm位になります。



☆ 御前崎とアカウミガメ ☆

御前崎の漁師たちは、昔から「カメは、神様のお使いだ。」「流木にカメがいると豊漁だ。」などと言って、カメを大切にしています。死んだカメが海岸に打ち寄せられると、お墓を造って葬りました。それを「カメ塚」と言い、今でも祭られています。

1972年(S47)町保護活動開始
1977年(S52)県指定天然記念物
1980年(S55)国指定天然記念物
【御前崎のウミガメ及びその産卵地】

安心してウミガメが上陸、産卵できるように、海や海岸をきれいにしよう！
(ビニール、ペットボトルなどのゴミを捨てないでくださいね。)

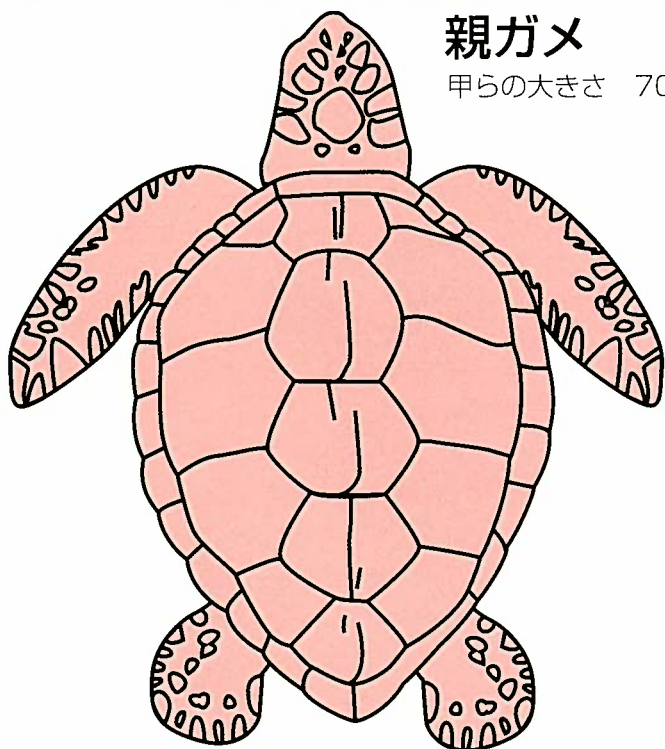
観察の注意

- ・産卵するまでは、カメに近寄らない。
- ・大きな音や声を出さない。
- ・ライトで照らさない。
- ・カメの頭に手を近づけない。
- ・写真撮影は禁止です。
- ・監視員の指示に従ってください。

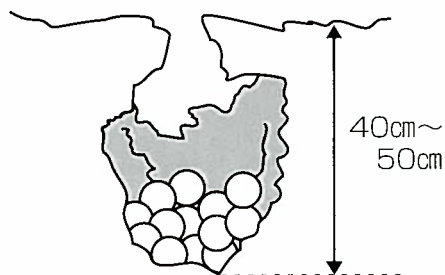
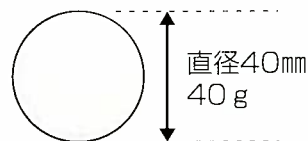
※観察には許可が必要です。観察を希望される方は、御前崎市教育委員会・社会教育課までお問い合わせください。

親ガメ

甲らの大きさ 70cm~1m位



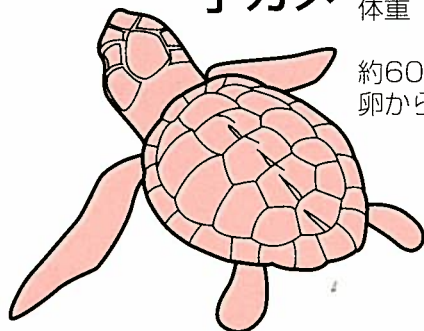
タマゴ



子ガメ

甲らの大きさ 4cm
体重 20gほど

約60日ほどで
卵からふ化します



1回の産卵で、約120個位産み落とします。

問合せ先：御前崎市教育委員会 社会教育課
TEL:0548-63-1129 FAX:0548-63-1152
shakyo@city.omaezaki.shizuoka.jp